

北海道で酪農業を学び、
家族や仲間と切磋琢磨し
将来を見据えた酪農に取り組みたい
家業を支える3代目!!

業種は違えど
地域の仲間と切磋琢磨



▲家族共通の目標は、杉本さんが学生時代からの夢だったファーマーズカフェの開業。「縁」を大切にした、自分たちにしかできないカフェの実現に夢が膨らみます。

業種は違えど 地域の仲間と切磋琢磨

近江鉄道愛知川駅から1kmほどの場所で、杉本牧場として酪農業と土地利用型農業の複合経営を行っています。幼い頃から実家で牛を飼っていることが当たり前だと思っていた、高校生になつて初めて家業を意識しました。牧場の3代目として経営に携わるため、高校卒業後は北海道の大学や牧場で酪農業を学び、平成21年に従業員として実家に戻ってきました。北海道では常に酪農業を営む仲間に囲まれてきた一方、この地域では酪農家が少ないと感じた大きなギャップでした。若手農業者が集まる「ファームズクラブ」とのことで業種は違うものの、切磋琢磨できる仲間に恵まれたおかげで、ひたむきに酪農業に取り組むことができていると実感しています。

将来もこの地域で 酪農業を続けていくために

酪農業では、およそ65頭の牛を飼育し、JAを通じて牛乳を年間455トン出荷しています。私が日々の仕事で最も意識しているのは、学生時代に学んだ「SDGs・持続可能な酪農システム」の実践です。今ではよく耳にするようになった「SDGs」がまだ普及する前に学んだ「SDS」ですが、将来も牧場経営を続けていくために、そして、地域になくてはならない牧場となるためにはどうすればよいか、常日頃から考えて取り組んでいます。具体的には海外製品、特に牛の飼料を輸入に依存しなくても済むよう、稲WCSの自家生産に力を入れるほか、近隣の豆腐製造会社から仕入れたおからを飼料に活用するなどしています。

当たり前になっている牛乳も、 いつか無くなってしまうかも知れない

これまで住宅地の近くで酪農業を営んでいることを悟られないほど、においの問題には気を使ってきました。おかげで「こんな近くに牧場があるなんだと」という声を多く聞きます。その反面、地域で酪農業を懸命に取り組んでいるということが知つてもういづらいという課題も出てきました。この10年で、県内の酪農家は半数以下に減少しています。牛乳に限った話ではありませんが、私たちが当たり前にあると思っているものが、当たり前ではなくなるということが現実に起こる時代です。日本やこの地域から牛乳が無くなってしまうということがないよう、これからも安定しておいしい牛乳を出荷できるようがんばります。地域の皆さんには、たくさん牛乳を飲んで酪農を支えていただきたいです。よろしくお願ひいたします。



▲「清潔に整理された環境が、働くモチベーションに大きく関わる」と、こまめな清掃作業を行っています。

ほかにも、化学物質に頼らない良質な肥料としての堆肥を地域の農家へ安定供給することで、地域の農業をともに高めていくよう取り組んでいます。



▲ラッピングした稲WCSに破れが無いか確認する杉本さん。



▲飼料を均一に混ぜ、効率的に給餉することができる最新機械を導入。牛の好き嫌いを防止し、食べる量が1.5倍に増えたことで、搾乳量や繁殖成績の向上を実感していると話します。

プロフィール Profile

あいしうちょういち
愛荘町市
すぎ もと ぼくじょう
杉本牧場
すぎ もと しん いち
杉本 真一さん(39)
主な生産品目

品目名	規模
牛乳	65頭
稲WCS	8ha
水稻	8ha

(令和4年度)



▲自走式給餉車で牛に飼料を与える杉本さん。出荷する牛乳は、JAを通じてスーパーなどの小売店や学校給食へ供給しています。

